

福岡県久留米市（人口23万都市）における極低出生体重児の早期介入システムの確立と社会的効果

分担研究者：東京慈恵会医科大学小児科¹、久留米大学小児科²、聖マリア病院母子総合医療センター新生児科³、久留米市幼児教育研究所⁴、こぐま学園⁵
前川喜平¹、松石豊次郎²、福田清一³、山下裕史朗²、原 淳二⁴、木村美由紀⁵、黒岩静子⁵、橋本武夫³、大熊 猛⁵、諸富博司⁴

要約：極低出生体重児の発達援助、親の育児不安解消を目的に人口23万人の都市における早期介入（Early Intervention）のシステム化の確立と社会的影響、効果について考察した。

見出し語：極低出生体重児、早期介入、地域システム

研究目的：極低出生体重児として出生した児とその母親・家族を支援する地域におけるシステムを確立する。児の発達促進のみでなく、この場を母親達の育児に対するコミュニケーションの場としても活用し、育児不安や過干渉によって生じる二次的な障害の予防の場とする。また共同研究を通しての医療機関、療育機関の連携が強化される事を目的とする。

対象と方法：福岡県久留米市、小郡市、春日市、八女市、大川市、柳川市および佐賀県で出生し、久留米大学、聖マリア病院に入院、または新聞や久留米市の広報を見て早期介入を希望した極低出生体重児17人である。早期介入群と同数の極低出生体重児で早期介入に参加できないものを対照群とした。新版K式発達検査を施行してフォローアップした。現在、早期介入後の発達検査を実施中である。

結果：平成5年10月に厚生省のパイロット事業である極低出生体重児の早期介入（名称ティーニーエンジェル）を平成7年10月成功裡のうちに事業終了したが、参加した保護者およびスタッフ（保母、医師）から子どもの発達の促進のみでなく、子ども達の友達作りや母親の不安解消に効果があると事業の継続を望む声が多く、久留米市の療育機関である幼児教育研究所の全面的な協力のもと、平成7年度継続し、平成8年度からは市の「発達支援事業」の療育部門の一つとして位置づけして頂いた。スタッフは医師2-3名、保母3名、心理療法士2名および久留米市の幼児教育研究所のスタッフである。回数は月に1回で第1水曜日の午後に幼児教育研究所の大会議室およびプレイルームを使用している。午後2時まで受付、2時より集団指導、3時から母親とスタッフで懇親会、育児相談などを行い、子供達は自由遊びとなっている。早期介入のプログラムは毎月変わり、節句、七夕、クリスマス、冬は屋外に散歩したり、夏はプールとバラエティに富んでいる。

極低出生体重児のEarly Intervention（ティニーエンジェル）

イニシャル	年齢新版K式発達検査					
	GW	BW	姿勢・運動	認知・適応	言語・社会	全領域
T.Y	28	1180	116	86	96	92
K.M	29	1211	128	117	121	121
K.T	31	1160	81	97	87	94
K.R	31	1160	76	105	109	105
Y.E	29	776	87	85	77	83
T.A	28	1180	57	103	91	91
E.K	23	690	81	100	100	100
T.N	32	954	89	87	91	88
S.T	30	610	79	65	76	70
S.T	27	1110	73	81	85	81
S.J	33	1130	105	86	78	86
H.K	34	1216	85	86	77	84
M.S	29	1095	113	105	95	101
K.A	28	1212	51	91	81	81
Y.D	30	860	80	52	64	59

結論：久留米市の広報の1つである幼研だよりにティニーエンジェル学級の事が紹介されて、久留米市のみでなく、周辺の広域に子どもへの地域支援サービスの必要性が広まった。親の輪も広がり、子どもたちと親と一緒に遊ぶ機会が増えてきた。親からは、もっと早くこのような機会をつくって欲しかったとの意見が多かった。小さく出生した子どもと親に生き生きと参加してもらおう場が作られた事は、市民の啓蒙、市のイメージアップにもつながっていると考えられる。小子化時代において、将来高齢化社会を支える子ども達を地域社会が支援する事は、社会経済効果としても重要な事である。

参考文献

- 1) 松石豊次郎. NICU最前線. 極低出生体重児のフォローアップ. 極低出生体重児の幼児期のフォローアップ. Neonatal Care 1997; 10(5): 416-22.
- 2) Matsuishi T, Ishibashi S, Maekawa K et al. Early intervention for very low birth weight infants. Brain Dev 1998 in press.

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:極低出生体重児の発達援助、親の育児不安解消を目的に人口 23 万人の都市における早期介入(Early Intervention)のシステム化の確立と社会的影響、効果について考察した。